

大会後記

第66回大会を終えて

大会長 今泉和則
広島大学大学院医系科学研究科

今年の日本神経化学学会大会は2023年7月6日(木)~7月8日(土)の3日間、神戸国際会議場で開催されました。ここ数年続いたオンラインまたはハイブリッドでなく、参加者が現地に集結しオンラインサイト開催できたことで大変盛り上がった大会になったと思います。本学会が重視する“議論を尽くす”大会が久しぶりに完全復活できたのではないのでしょうか。

今回の大会は日本神経病理学会との初めての合同大会となりました。過去に両学会の合同シンポジウムが何度か企画されるなど合同大会を行う素地があったことに加え、異なった視点での神経疾患研究の融合に大きな魅力を感じ合同大会開催を計画致しました。文化の異なる学会同士の初めての合同大会ですから、バランス面を配慮しながら準備を進める必要がありました。特にプログラム編成に関してはこれまでの各学会の重要イベントを保ちつつも、融合が図れるよう細部まで工夫を凝らしました。その結果、関係の先生方のご尽力により、神経疾患をベースに幅広くブレインサイエンスを味わえる充実したプログラムに仕上げることができたと思います。

プレナリーレクチャーでは、岩坪威先生、澤明先生、田中耕一先生にそれぞれのご専門から神経疾患研究の現状や問題点についてご講演いただきました。いずれのご講演におきましても、領域の融合による学際的アプローチが疾患研究を含めブレインサイエンスの発展に欠かせないと異口同音強調されていたのが印象的でした。このメッセージは両学会による合同開催の価値を高めるとともに、今後の連携の重要性を再認識するものとなりました。また、大会期間中にアルツハイマー病治

療薬が米国で正式に承認されるビッグニュースが飛び込み、岩坪威先生のプレナリーレクチャーはまさにタイムリーなご講演でした。企画と公募を合わせてシンポジウムは27セッションにのぼりました。見解の異なる研究者がディベートで論じ合うシンポジウムは、その領域の研究の問題点が描出でき重要な議論になったと感じています。シンポジウムに留まらず今後は一般口演あるいは若手道場などもディベートを取り入れるのもありかと愚考した次第です。また、この数年途絶えていましたISNおよびAPSNとの合同シンポジウムが開催できましたことも特筆すべき点です。海外から多数の研究者が神戸にお越しいただき議論を深めることができました。神経化学領域で本学会がリーダーシップを発揮していく上で両学会との交流は欠かせません。それと同時にこの交流を通じて若手研究者には国際舞台で活躍していくきっかけにさせていただきたいと思います。教育講演、シンポジウム、一般演題、若手道場、ポスター発表を含め総演題数が551題、参加者は962名にのぼり、当初の想定を大幅に上回りました。皆様のご協力で非常に充実した3日間になりましたこと厚く御礼申し上げます。

若手育成セミナーは、日本神経病理学会の若手研究者も参加し合同形式で7月6日、7日に実施しました。神経化学5グループ、神経病理2グループに分かれ、重鎮の先生方にそれぞれの視点から研究哲学について語っていただきました。両学会の参加者がお互いに交流できる時間を設けましたところ、これが思いの外好評で、分野を越えて新しい研究仲間の輪が生まれようとする雰囲気包まれていました。合同大会の際は、合同セミナー



上：若手育成セミナー集合写真
下左：ポスター会場
下右：懇親会会場

形式をとり、新しい風を招き入れることも重要と感じた次第です。今年度も昨年に引き続き一般財団法人ながひさ科学振興財団様から多額のご寄附を賜りました。さらにナカライテスク株式会社様、株式会社ミクセル様、公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団様からも貴重なご支援賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本セミナーを開催するにあたりましてご尽力賜りました若手育成委員会の照沼美穂先生、世話人の金本聡自先生、吉村武先生、神経病理側の世話人の池中健介先生に心より感謝致します。

7月7日の夕刻に開催しました懇親会も驚くほど盛況で、会場定員にあたる約300名の先生方にご参加いただきました。ジャズ演奏や利き酒コーナーを設けるなど、短い時間ではありましたが、参加

者の皆様には十分にお楽しみいただけたのではないのでしょうか。一方で、定員オーバーのためご参加いただけなかった先生には大変申し訳なくお詫び申し上げます。

抄録のHP掲載が遅れたことや、プログラム集作成に手間取ったことを除いて概ね運営はスムーズに進みました。多くの企業様からご支援いただきましたことも大会運営上大変助かりました。何より大会期間中大きな災害や悪天候に見舞われることなく無事に3日間を終えられましたこと幸運であったと思います。本大会開催にあたりましてご尽力下さった実行委員の先生方、事務局、日本神経化学会理事長の小泉修一先生、日本神経病理学会理事長の柿田明美先生、日本神経病理学会大会長の望月秀樹先生、そしてご参加いただきまし

た皆様に心より感謝申し上げます。

私自身、日本神経化学会に入会して35年ほど経過しております。これまで学会活動を通じ多くの先生方にお世話になりました。本会のホストを務めることでご恩に報えたのか定かではありませんが、去年の竹居光太郎先生からバトンを受け、来

年の小泉修一先生に無事に引き継ぐことができ重積は果たせたのではないかと安堵しております。次年度はNEUROに戻ります。準備が着々と進んでいるとお聞きしています。次回大会の成功と本学会の益々の発展を祈念し、大会開催のご報告とさせていただきます。